

平成26年2月の「きになる通信」

知恵使って「駆け込み」 — 消費増税、カードで対策

口座引き落とし 4月以降でも「5%」



消費税率が5%のうちに「ちょい高」商品を上手に買う消費者が多くなっています。

クレジットカードの夏のボーナス払いなどで4月以降の口座引き落としにすれば税率は5%です。レジャー施設の年間パスも価格改定前に買う人もいます。

駆け込み消費は2兆円規模とされますが、本格化する3月に向けてこうした消費行動は広がりそうです。

(2014年1月10日 日本経済新聞記事から抜粋)

高給取り狙い撃ち? — 税負担にゆがみ懸念

家計負担、年収1500万円なら75万円増



消費増税や厚生年金保険料の引き上げなどで、家計の負担が重くなります。

年収500万円の家計では31.2万円、年収1500万円なら75.5万円。

主要国の所得課税の負担額を比べると、日本は19.6万円と、米国の52.2万円、ドイツの60.8万円と比べ小さいようです。

(2014年1月20日 日本経済新聞記事から抜粋)



テーマは「きになる」住まいの“きになる”について考えます。

住まいのきになる通信 NO. 2

今年の春 ビビッドくる — 鮮やかな色、女性に人気

景況感の改善映す 幅広い世代に



百貨店や専門店ビルで、鮮やかな赤やピンクの「ビビッドカラー」の春物コートやワンピースが売れ始めています。

例年はパステルカラーと呼ばれる淡い色が春物衣料の定番ですが、今年は40代以上の女性の間でも目が覚めるようなはっきりとした色使いを好む傾向が強いようです。背景には景況感の改善があるようです。

(2014年1月21日 日本経済新聞記事から抜粋)

堺の町家 — 生かす 残す イベントで地域活性化

「虫籠窓」に戻す カフェに改装 市や国も後押し



阪堺電気鉄道阪堺線の高須神社—妙国寺間のエリアで、町家を生かした地域活性化の動きが活発になってきました。

同地域に多く残る太平洋戦争の戦禍を免れた古い建物をカフェやギャラリーなどにして、散策に訪れる人を呼び込もうとしています。

国の支援策の認定も受け、街並み再生に向けた取り組みも本格的に始まります。

(2014年1月25日 日本経済新聞記事から抜粋)

